

山のとっぺん 広い空

今年も9月20日頃を境に気温が下がり始め、朝夕は寒い程になりました。山のとっぺんにある畑の上には、気持ちのいい360度の青空が広がります。雲ひとつない朝の青空に、いつのまにか白い雲が浮かび、その表情を変えていく空。その空を日に何度か飛行機が横切って飛んでいきます。そう、そう、今日はキジが4~5羽、頭の上を飛んで行ってびっくりしました。

畑で仕事をしているのがもったいないくらいのこんな秋の日は、いつものおにぎりとか、焼きイモとか、ふだん食べ慣れたうちの味がおいしくて。今週もまた、いつものトマトソースのスパゲティを作って食べました。

畑の野菜と一緒に、この山の空気も届けられたら…。人参の草取りをしながら、今日も青空を見上げています。



トンネルの中にはキャベツ、そのとなりは人参です。

早く食べたいですね 人参の芽が出そろいました



ずいぶんまばらではありますが、ここまで大きくなれば一安心。草取りのまっ最中です。それでも虫に食われていないか、見回りが欠かせません。

どのくらい生き残るでしょうか 白菜の苗を植えました



お天気と、気温と、苗の様子を見て、2日間で1,000本くらいの苗を植えました。虫に切られたり、食べられたり、枯れてしまったりと、まだまだ心配はつきません。

早く芽が出ないかなあ 大根の芽が出始めました



いつ、何の種をまいても、芽が出始めているのを見ると、うれしいです。大根になるのは早いもので11月中旬頃から。がんばれ！大根。虫に食われるな！

tonchanのQ&A

Q. 冬になっても野菜セットにお休みはありませんか？

私たちの畑は、内陸の標高が550mのところであり、冬の寒さは広島県の中でも厳しいところです。冬の最低気温は氷点下10度まで下がることもあり、最高気温が氷点下の日もあります。地元の方には、冬に収穫するものは無いでしょうと言われるかもしれませんが、露地の畑でも寒さに強いホウレン草、ターサイ、白菜、人参、ゴボウ、大根などを収穫することができます。寒さにあった野菜は、甘さが増しておいしいです。

雪が積もって、外で収穫が出来ない時のために、ハウスでも葉物野菜を作っているの、冬になっても、野菜セットは休まずお届けします。

Q. 堆肥の放射能汚染は大丈夫ですか？(先月の続き)

牛糞堆肥やバーク堆肥は、放射能汚染が心配なので、使用しないことにしました。

堆肥に代わりに、次の5種類の資材を検討中です。

- ①畑で育った牧草
- ②炭(中国地方の間伐材や竹を原料としたもの)
- ③ココピート(ヤシの実を粉砕したもの)
- ④泥炭
- ⑤ピートモス

各資材ともに長所、短所があり、もう少し検討します。どの資材も窒素分は少ないので、窒素分を補給するために、鶏糞を使う予定です。

山本ファミリーの あいふれた…文化の秋…

「ビギンの島唄 オモトタケオのがベスト」

♪ 金がないなら海に行か
魚があれば生きられる
なんくるないさやってみれ
働くからこそ休まれる ♪

沖縄的な響きに、つい、体が動いてしまいます。お腹ペコペコで、疲れて家に帰った時も、なぜか元気が出てくる曲がいっぱいです。Tonchanが一番好きなのは、「オジー自慢のオリオンビール」、私が一番好きなのは、「アンマー我慢のオリオンビール」。次に生まれ変わった時は、沖縄に生まれようかなあ…。

オクラの種を採りました

もともとは、沖縄の島オクラの種をまきました。もう、何年も種どりをしています。大きくなっても柔らかいお気に入りのオクラです。



Question 1. まちがい探し

山本ファミリー農園のロゴマークをご存じですか？ “生まれる” “生きる” という意味を込めてデザインしました。が、ある時、「違ってるヨ…」との指摘があり、気づいた大きなまちがいひとつ。さて、さて、それは？

「宇宙は何でできているのか」(幻冬舎新書)に

続いて手にした本。今、宇宙がおもしろい。(わからないから、おもしろい…?) きれいな星空を見上げながら、宇宙の大きな謎に思いをはせます。私も宇宙ファンになろうかな…。



オーガニックな庭づくりをする植木屋さんが書いた本。多様な生きものたちが生き生きとしたつながりをもつ庭には、自然界の不思議や、わくわく感がつまっている。“雑草”に対する見方が変わります。



Question 2. とんでもない?

この時期の種まきのポイントは、芽が出たばかりの小さい時に、いかに虫に食われてしまわないようにするか…ということ。大根や人参など根を食べるものは、普通直まきをしますが、双葉がキスジノミノハムシに食べられやすい〇〇は、直まきでなく、小さな苗を移植しています。えっ? 〇〇を移植して大丈夫?と言われますが、大丈夫です。

Question 3. 大変だ～!

一匹の〇〇〇〇〇〇〇〇を見逃したことが、大変なことに…。気づかないうちにハウスの中に卵を産み、幼虫が生まれ、サナギになり…。ある朝、ハウスの入り口のドアを開けると、何十匹もの〇〇〇〇〇〇〇〇が舞っていました。捕まえても、また翌日には何十匹。そして、しばらくすると、何百匹ものアオムシが生まれてしまいました。つぶしても、つぶしても、アオムシの日々。この後が怖いです。

カントリーウォーカーの山浦正昭さんが、

「やまさんの山浦正昭旅人活動50年史」発行を計画中。やまさんとの最初の出会いは、上下町のMGユースホテルでの野樂人の集まりでした。歩く旅の好きな人におすすめです。

